

國際會議の裏方

赤谷慶子

世界の要人多く参加する國際會議は常に波亂萬丈にて、尋常ならざる事態の出來しゅつたいする、いかなるゆゑなりや。會議終はりたる後は笑ひ話となりぬ。しかれども、最中、裏方スタッフは睡眠時間減らし働く事多く、緊張の極みにて、疲勞困憊す。

要人の成田に到着して宿泊所に向かふ所より始まる。黒塗りのハイヤー配車し、要人をして乗車せしめ、宿泊場所へ到着するまでの確認は最初の難關。一度米國の金融界大物乗車せるハイヤー料金所にて、前の車に追突する事故あり。警察到着するまで動けずといふ話になり、日本銀行總裁の晚餐會に間に合はずと要人激怒す。隨行通譯に何でも良ければタクシー拾へと指示し、たまたま成田へ客を送り届け、東京方面に戻る空タクシー見つけたり。ただ、運轉手、東京のタクシー會社故規定により千葉から乗客乗せられずと拒否するも、強引にメーター使はず料金拂ふと交渉し、帝國ホテルまで送り届く。その要人晚餐會に間に合ふ。

ある會議に於ては、アジアよりの要人成田到着するも、奥方と子供連れ來たらんとは承知したれど、母親同行せんとは初耳の儀、車に全員乗車する能はず隨行通譯成田よりバスにて戻る。携帯電話あらましかば、聯絡するをも得べからまし。しかれども携帯電話の存せざる往時いんじの儀にて、主催者仰天す。よもや母親を歸せとも言ふを得ず、四名分のホテルの部屋を再確保す。

ホテル宿泊もこれまた難儀にて、さる米國の元閣僚來日するも女性同伴の事判明す。奥方は數年前に逝去の事は承知故、成田にて出迎へたる隨行通譯この女性同伴者の事承知してをらず、困惑せるも「手をつなぎて通關口より出で來たる老カップル」に驚愕す。主催者に問ひ合はせ、許可貰ひホテルの部屋を急遽スイートに変更す。主催者ホテルにて出迎へたる際、その元閣僚「ガールフレンド」紹介し、その後全ての日程に夫人同伴との名目にて對應す。

交通手段もなかなか頭の痛き問題にて、常に神経とがらす。日本銀行主催の米國聯銀關係の會議におきて、會議後のレセプション用のバス突然姿消す事件あり。日本銀行よりバスにて宿泊先に戻りし参加者は、一時間後に同じバスにて總裁主催の夕食會に赴く日程なりし。夫人同伴にて、出發時間三十分前にバス見當たらず、隨行スタッフ顔面蒼白となり。バス會社に問ひ合はせ判明せしは、運轉手の勘違ひにてバス二台とも車庫に戻りぬ。早々にホテルに戻る旨指示するも、十分程度遅るらんと由。参加者には交通滯滞にてとの理由にて説得したれども、スタッフ一同冷や汗かく。

また、ある會議の参加者を東京都知事招待するも、バスにて移動の参加者豫定時刻より早めに到着せんとの由判明し、主催者の指示にて都知事到着までバス降るる不可との情報あり、バスにてホテル周邊三回周る。三回目の時、カナダの故トルドー元首相「ここ先ほど通らずや」と發言し、スタッフ一同蒼ざさむるも、詮方なし。今こそ笑ふ餘裕もあれ、當時はストレスの原因となりにけり。しかれども、會議参加者の擔になふ役割果たすべく、上手く動かせることこそ裏方の使命なり。

(平成二十九年五月二十三日受附)

